

授業科目の概要

▶ 基幹科目

国際交流研究基礎論

担当：鐙屋 一（言語文化研究科 中国・韓国言語文化専攻所属）

国際交流研究の基盤となる原理について考察する。具体的には、文化的社会的な「他者性(otherness)」がどのように認知され知的体系に組み込まれ、いかに既成の世界観の修正をもたらしたのかについて検討する。

▶ 国際・地域社会コース

国際関係研究 担当：石井 貴太郎

政治的現実主義の考え方に基づいて国際関係・国際政治を観る上で基本的な知識の修得を目指すため、古典として位置付けられている基本的文献を輪読して受講者全員で討論する。

現代政治研究 担当：石井 貴太郎

現代政治学の基礎理論について、ミクロ政治学（政治過程論、政治行動論など）、マクロ政治学（政治体制論、政治社会論など）を学ぶとともに、日本政治の現状と課題について学問的に考察するための視野の修得を目指す。

国際経済研究 担当：長崎 秀俊

国際経済を見る視点を養い、世界経済で起こっている現象の因果関係を読み解くことができる能力の育成を目指す。具体的には、貿易、地域統合、貧困、国際援助、環境開発といったテーマについて議論を深めていく。

国際協力研究 担当：野呂 純一

途上国内途上地域の現状についての理解を深め、経済学・国際ボランティア論・観光学の理論的枠組みと実践的事例を用いながら、持続可能な国際協力・国際開発のあり方について多角的に考察する。

公共政策研究 担当：則武 輝幸

今日の国際社会では、地球規模の問題に対して、国家・国際機構・非政府組織・市民社会組織・企業などによってグローバルな公共政策がとられている。グローバル公共政策とは何か、どのように決定されるのか、どのような問題に取り組むべきかについて、最新情報に基づき検討する。

比較政治研究 担当：堀内 直哉

アジアにおける日本と、ヨーロッパにおけるドイツの近代化過程を比較検討することにより、日独両国の共通性や差異性を明らかにし、両国の近現代史についての理解をより一層深めることを目指す。

国際安全保障研究 担当：澁谷 司

安全保障理論に関する基本的理解を得るとともに、世界および日本にとって主要な安全保障の課題となる地域（特にアジア・太平洋）について具体的な知識を教授し、安全保障問題に関する情報の収集と分析に関する基礎を養成する。

地球環境問題研究 担当：飛田 満

環境問題は地球規模の深刻な問題であり、その解決のためには私たち一人ひとりの取り組みが大切である。本講座では、今日私たちが直面しているさまざまな環境問題について考察し、これを社会学的な視点から検討する。

グローバル・ビジネス研究 担当：長崎 秀俊

インターネットの普及とともにグローバル・ビジネスが急拡大している。そのような状況下、ビジネスを行う企業側の戦略的な意図や施策を学び、国境を越えたビジネスの成功要因を紐解いていく。

労働社会学研究 担当：高久 聡司

日本社会における労働・雇用のあり方の大きな変容と、その結果として顕在化してきた諸問題を、これまで蓄積されてきた実証的・理論的研究の検討を通して、社会学的に読み解く力を身につけることを目指す。

アジア研究 担当：倉橋 圭子

東アジアにおける人やモノ、情報の交流の歴史的展開を、外交・通商・留学・技術移転などの事例から多角的に考察し、現代のアジアにおける交流のあり方を検討するための基礎的知識を修得する。

アメリカ研究 担当：浅野 一弘

アメリカについての情報は得ているものの、その実態を熟知していないというのが正直なところではないか。そこで、大統領ごとのトピックに注目して、同国の政治・経済・社会・文化に関する検証をおこなう。

ヨーロッパ研究 担当：堀内 直哉

近代以降のヨーロッパの国際政治情勢について、ドイツの動きを中心に分析していく。特に1871年のドイツ帝国設立後のドイツの対外政策に焦点を絞りながら、激動のヨーロッパの近現代史を考察する。

イスラム研究 担当：石田 信一

イスラム教の基本的教義や歴史的発展および現代的な諸問題について概観するとともに、イスラム世界と非イスラム世界（欧米・日本）との関わりについて比較文化論的および国際関係論的な視点から考察する。

▶ 地域文化・交流コース

日本史研究1(古代・中世・近世) 担当：赤木 妙子（2025年度は開講せず）

前近代の日本（列島）の歴史を、対外交流の視点から概観する。文献史学の基本を学ぶためにも、各時代、各地域の一次史料を積極的に利用し、グローバルな視点からの「日本通史」イメージの形成を目指す。

日本史研究2(近代・現代) 担当：赤木 妙子

近代以降の日本の歴史について、特に対外的な交流に焦点を当てて講義する。エスニック文化としての日本文化という観点から、国際社会における「日本」「日本人」について考える視座の修得を目指すことを主眼とする。

日本思想史研究 担当：早川 雅子

近世の日本思想史に関する資料を講読する。訓読と現代語訳することを通して日本的な儒学思想の特性を理解する。

日本民俗学研究 担当：鈴木 章生

民俗学は、日常生活の中で伝承されてきた行為や習慣を対象に、日本人の行動や心の基層にある文化を捉える学問である。都市化した今日、民俗がどう変化し残存したかなど、事例を交えて日本民俗学の諸問題を検証する。

地域資料研究 担当：鈴木 章生

地域資料とは、地域を理解、分析する資料をいう。その種類には自治体が発行する行政資料、歴史・地誌・民俗・産業資料などがあるが、実際の資料に基づいて特徴や性格を考察し、地域文化の理解を目指す。

比較文化研究 担当：飛田 満

文化の中でも思想、特に西洋思想について理解を深める。西洋思想の二大源流であるキリスト教思想と古代ギリシア思想、西洋近代思想の主流となった大陸合理論と英国経験論およびドイツ観念論の思想を比較対照し類型論的な考察を試みる。

比較宗教研究 担当：西沢 史仁

仏教は、その発祥の地インドから東アジアへと広く伝播した教えであり、日本文化の重要な基層の1つを形成しているが、現代の日本人にとって残念ながら「近くて遠い存在」となっている。本講座では仏教を基軸に据えて宗教のあり方について考察したい。

社会哲学研究 担当：廣重 剛史

近代的な社会観、歴史観、人間観、自然観、技術観などについて、哲学者や社会学者の思想や理論を取り上げて批判的に考察し、これからの社会に必要とされるものの見方や考え方について検討・討議する。

考古学研究 担当：水本 和美

地域文化の研究に有用な方法の1つである考古学について、その学問としての基礎的な概念、目的、方法、学史などを講義するとともに、海外を含めた事例紹介や文献史学との共同研究の可能性について論ずる。

ハイブリッド型授業の実施

本学では、対面・遠隔を併用したハイブリッド型で授業を実施しています。

博物館学研究 担当：今野 農

伝統的な文化の継承・発展や、地域文化の発信拠点としての性格を持つ博物館に関して、学問的見地からその役割を研究する。社会における博物館の存在意義が問われている中で、多様な研究視点の構築を目指す。

文化ボランティア研究 担当：廣重 剛史

文化ボランティアは、文化芸術に自らが親しむと同時に、他者にも貢献するボランティア活動に従事することである。本講義では、公民館や福祉施設などでの市民活動の事例を通じて、文化ボランティアの意義と課題を検討する。

まちおこし研究 担当：大西 律子

「地域振興」「地域活性化」の戦略、政策作りやそれらの展開方法に新たな知見を見出すことを共通の問題意識に据えて、主にそれらの遂行プロセスと促進・阻害要因を多角的に探究する方法の実践的理解を目指す。

観光・交通研究 担当：大西 律子

国内外の観光現象の実態について、交通との関連に特に焦点を当てながら理解を進めていく。具体的には、観光と交通の歴史、観光地・旅行者と立地要因・旅行手段、運輸業と旅行業などについて取り扱っていく。

都市社会文化研究 担当：山口 晋

現代日本における都市文化について、地理学的知見から分析する視座を養成するとともに、都市特有の社会現象・文化現象の具体的事例について考察することにより、当該課題に関する理解を深めていく。

▶ 臨地研究

臨地研究1（短期）・2（長期）

受講生が、修士論文作成に関わる学外実習研究を、修士論文指導教員の指導の下に個別に企画・実施し、実習終了後、研究の目的・内容・考察などに関し報告書を提出する。短期は60時間、長期は120時間の研究時間を要する。

▶ 演習

国際交流研究演習

1年次秋学期に開講され、受講生各自の研究課題に応じて選択する必修科目。歴史、哲学、宗教、政治、経済、社会などに関する研究テーマを選択し、学術論文作成の方法を学ぶ。

修士論文指導演習1・2

2年次に開講され、受講生各自がそれぞれの研究課題を当該分野の研究史上に適確に位置付けながらその内容を深化させ、修士論文の作成に繋げていく必修科目。

カリキュラム（修了要件：30単位以上）

	科目名	単位数		配当年次	備考
		必修	選択		
基幹科目	国際交流研究基礎論	2		1	
	国際関係研究		2	1・2	
	現代政治研究		2	1・2	
	国際経済研究		2	1・2	
	国際協力研究		2	1・2	
	公共政策研究		2	1・2	
	比較政治研究		2	1・2	
	国際安全保障研究		2	1・2	
	地球環境問題研究		2	1・2	
	グローバル・ビジネス研究		2	1・2	
国際・地域社会コース	労働社会学研究		2	1・2	
	アジア研究		2	1・2	
	アメリカ研究		2	1・2	
	ヨーロッパ研究		2	1・2	
	イスラム研究		2	1・2	他研究科の開放科目を含め22単位以上選択ただし、開放科目は8単位を上限とする
	日本史研究1（古代・中世・近世）●		2	1・2	
	日本史研究2（近代・現代）		2	1・2	
	日本思想史研究		2	1・2	
	日本民俗学研究		2	1・2	
	地域資料研究		2	1・2	
地域文化・交流コース	比較文化研究		2	1・2	
	比較宗教研究		2	1・2	
	社会哲学研究		2	1・2	
	考古学研究		2	1・2	
	博物館学研究		2	1・2	
	文化ボランティア研究		2	1・2	
	まちおこし研究		2	1・2	
	観光・交通研究		2	1・2	
	都市社会文化研究		2	1・2	
	臨地研究1（短期）		2	1・2	
臨地研究	臨地研究2（長期）		4	1・2	
	国際交流研究演習	2		1	
演習	修士論文指導演習1	2		2	
	修士論文指導演習2	2		2	

●印は2025年度は開講せず

履修スケジュール例（国際・地域社会コース1年次の場合）

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	9:30 ～ 11:00					1
	※平日第1～2時限は国際交流専攻の授業はありません。					
2	11:10 ～ 12:40					2
						国際交流研究基礎論 公共政策研究
3	13:30 ～ 15:00				アジア研究	3
4	15:10 ～ 16:40	日本史研究2			観光・交通研究 グローバル・ビジネス研究	4
				比較政治研究		
5	16:50 ～ 18:20	地球環境問題研究				
夜1	18:30 ～ 20:00	都市社会文化研究			アメリカ研究	
				国際交流研究演習		
夜2	20:10 ～ 21:40					

…春学期 …秋学期